

## Momoka Murata

Estonian Entrepreneurship University of Applied Sciences (Estonia)

Major: Game Design and Development



私が海外の大学に進学しようと思ったきっかけは、日本の大学はつまらなさそう、というシンプルな、そして少しネガティブな理由からです。

高校 2 年の頃から周りが進路のことを気にし始め、その頃は私ももちろん日本の大学に進学する予定で親にも友達にも、学校の先生にも伝えてありました。しかし大学について知っていくうちに、日本の大学教育は素晴らしいとは思いましたが、自分が求めているもの、つまりもっと実践的な授業内容を提供している大学はないと感じ、そこで海外に目を向けたのです。

その頃私は、将来、女性の社会的地位をあげるために自分が起業することで、日本社会に影響を与えたいという思いがあったため、大学での専攻は経済学部や **Entrepreneur** 向けの学部を希望していました。

現在私はエストニアにある、起業家、**start-up** 専門の大学でゲームデザイン・開発学部にあります。どうして経営学からゲーム開発へと変わったのか？ それは、中学生の時に見たある映画がきっかけなのです。「**Beautiful mind**」という、ジョンナッシュ博士の一生を描いたノンフィクション作品があるのですが、これを見て初めてジョンナッシュという人物を知り、そしてさらに彼のことを知りたくなった私は、最終的に、高校 2 年の頃、経済学とゲームとの関連性に気づくことになりました。

経済学、経営学一本だと思っていた自分の頭の中に、ゲームという概念が入りこんできたときは、困惑しつつも大きなワクワク感でいっぱいでした。今でこそ有名なゲーム理論ですが、この理論の根底の一つとして有名なのが「ナッシュ均衡 (**Nash equilibrium**)」という、ゲームのプレイヤー戦略の一つで、ジョンナッシュ博士が生み出し、ゲームと経済学を結びつけるのに大変重要な役割を担う理論があります。その理論に感動し、経済学から企業経営へと繋げるのではなく、ゲームから起業へアプローチするのも面白いのではないかと思ったのです。

海外進学を個人的に視野に入れ始めたのが高 3 になった頃で、そのことを親に伝えたのが 2 学期に入ってからだったと思います。ただその時点では、私の周りに海外進学に肯

定的だった人は1人もいませんでした。そこで私の叔母に相談したところ、彼女の知り合いに、日本人生徒の海外進学を応援している方がいると聞き、連絡先を教えてくださいました。これが、北村美和さんとの出会いだったんです。

ゲームと企業経営を関連づけて学べる大学なんてないと、想像や理想の話だと思われるでしょう。もう解は出ていると思いますが、実際にそんな大学はあるんです。私がその理想の大学へと進学する根本的なきっかけとなったのが、ガイダンスカウンセラー、北村美和さんだったのです。

彼女のなにが素晴らしいって、もちろん膨大な大学についての情報量や広い交友関係も尊敬すべき点ですが、彼女は私たち生徒との心の距離が近く、心理的に安心できる環境を作ってくださいることだと思います。情報量があり顔が広いのももちろん海外進学に必要な材料ですが、一人で日本を旅立ち一人で離れた異国で暮らすというのは、精神的な支えがなければ容易なことではありません。

私は当時、正直自分が海外の大学へ進学して、そこで一人でやっていける自信がなかったのですが、彼女が私のすごく個人的な相談に対してアドバイスをくださったり、リストアップした大学中から私の性格に合いそうな国を選んで勧めてくださったり、そのおかげで私の心は軽くなり、海外進学する決心がつきました。しかし心の支えがあっても実際の情報やコネクションがなければ進学はできませんから、彼女の魅力はもちろんそれだけではありませんよ。

去年の終わり頃、親とも一緒に海外進学を本格的に考えるようになったのですが、私の親が留学を許可する上で出した条件は、私が本当にしたいことのできる大学、学費はなるべく安く、国の治安がいいところ、そして絶対に途中で諦めて帰ってくるな、というものでした。そしてさらに私個人が希望したのが、ゲームと企業経営の関連性に富んだ大学、というもの。正直、この条件の大学を世界中から探し、出願から入学までこなすのは一人では不可能です。だからこそガイダンスカウンセラーという存在がいるのです。私も彼らの存在がなければここにはたどり着きませんでした。

今の大学に出願したいと北村さんに伝えたところ、実際に大学に足を運び、学校の雰囲気やその国の現状を彼女の目で確かめ、その上で勧めてくださいました。海外の大学に進学するとなるとオープンキャンパスやオープンスクールなどに気軽に行くことはできませんから、だからこそ彼らガイダンスカウンセラーが実際に目で見たものしか勧めないという姿勢が、私たち依頼者が彼らを最も信頼できるといえる証なのです。

さて、私は今エストニアの大学に在籍しているわけですが、なぜここなのか？もちろん第一の理由として、今の大学が私の学びたいことが最大限にできる場所だったというのがあります。そして次に、エストニアの治安の良さと国民性、また日本人にあまり知られていない国、という点に惹かれました。実際どうなのかというと、私の住んでいる地域はとっても過ごしやすく、個人的に日本に住んでいた頃と変わらない生活を送っています。母国語の通じる相手が全くいないというのを除けば。

大学生活については、まだ授業は始まっておらず、オリエンテーションウィークなるものが先週から今週にかけて行われたので、そこで今年入学の生徒とはほぼ全員顔を合わせ、いくらか友達ができました。とってもしゃな大学なので、教授陣が生徒それぞれの顔と名前をしっかりと覚えてくださっているためコミュニケーションが取りやすく、アットホームなのがこの大学の魅力の1つです。

Sep 14, 2019, Tallinn, Estonia